

体育に対する態度変容についての一考察

県立松尾高校 江波戸 義太郎

目的：高校一年生が三年生になった時、体育に対する態度がどのように変化するかを調べる。

方法：質問紙法。「体育の授業についての調査表」(昭46 小林作成)を使用。設問に対して賛成を○、反対を×、どちらでもないを△と記入させた。態度得点の算出にあたっては体育に好意的な答を+1、非好意的な答を-1、どちらでもないを0として合計した。全部で30問。

調査第一回 昭49.10.11～20一年生263名

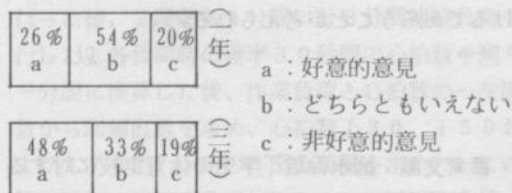
(全員女子)

第二回 昭51.10.11～20上記三年時251名(同上)

結果と考察

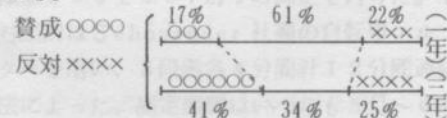
A：授業に対する喜びは如何に変化したか。この項に関する問は、体育の授業が、①生活にうるおいをあたえてくれるのか、②緊張をほぐしてくれるか、③よろこびより苦しみが多いか、④意欲的に授業にとり組めるか、⑤自主的に活動出来るか等10問である。

これら10問に対する答を割合で表わし、一年時と三年次を比較したものが次図である。

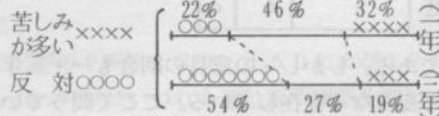


授業における喜びは意外に伸びなかった。しかも約2割の生徒がcと答え、この割合は一、三年時殆んど同じである。この10問のうち①、③に対する答は次のようになっており、①では反対が増

① 体育の授業は生活にうるおいをあたえてくれる。

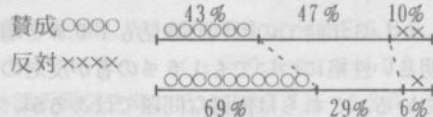


③ 体育の授業はよろこびより苦しみの方が多い。



加した。②の一年時に苦しみが多のは、体力づくりに重点をおいていたからであろう。生徒は鍛えるとか、体力づくりより、活動の楽しさや心身の緊張をほぐしてくれる体育をより望んでいるようだ。次の体育に関する価値についての答では、一年時26名、三年時16名が非好意的であった。この16名について特に調べると次のような結果であった。

問 体育は教科の中で最も価値あるものの1つだ。

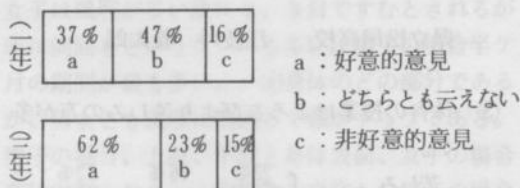


病気がち(貧血、皮膚病)2人、運動きらい(ふとりすぎ、不器用)4人、性格的に極めておとなしい1人、運動能力・体力ともに普通9人。ただし、この9人の中にはクラブ退部者、生活態度に問題のあった者、クラブ活動中の怪我がなかなか治らなかった者等が含まれていた。これと反対に一年時に非好意的であったが三年時に好意的になった45名について調べると、この生徒達は概ね成績良好、生活態度まじめ、学習は積極的であり、クラブ加入者8人/45、比較的病弱者4人/45等であり、先の16名と比較すると大きな差があった。

B：授業内容に対する評価はどのように変化したか。

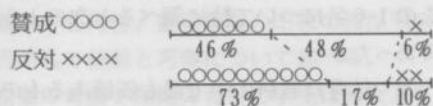
この項に対する問は体育の授業が、①体力づくりに役立つか、②たくましい精神力を養うか、③明朗・活発な性格をつくるか、④協力的な態度をつ

くるか、⑤正々堂々と頑張る習慣を身につけさせてくれるか等の10問である。これら10問の結果は次図の通りであり、好意的意見の増加が顕著



である。しかしcの意見の割合も一・三年時殆んど変らなく存在している。ここで問うている内容は一般的には認められていることであろうが、現実をつぶさに見れば小さな矛盾や疑問は多くあるだろう。15%の生徒は理想通りにはゆかない体育の現実を厳しく見ているのだと思う。協力性については次図の如く73%の者が認めている。

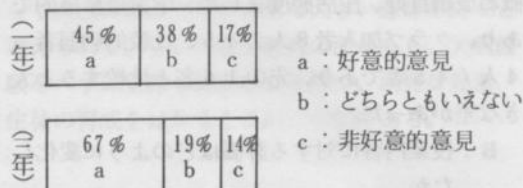
問 体育の授業は互に助け合い協力しあう習慣を身につけさせてくれる。



しかし3年時での批判的意見も10%と増加した。明るい性格についても16%の者が反対の答をしている。これらは困難な問題ではあるが、今後の指導に於て充分留意してゆきたい。

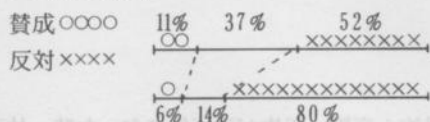
C : 授業に対する価値観はどのように変化したか。

この項では体育の授業に於て、①利己主義がむき出しになるか、②何をねらっているか分らないか、③何も考えずに命令に従う人間をつくり易いか、④他教科と比べて教師の存在価値は低いか等について10問の質問を集計した。次図はその結果である。一年時にaはすでに45%になっており、



三年時で67%に増加した。これは知識や理解度といった客観的な尺度によって判断されるためであろう。三年時のcが14%とあるが、反省させ

られる数である。次の問に対しては80%の者が体育の授業は何も考えずに命令に従う人をつくりやすい。



否定的であり、当然とも考えられるが、6%が賛成している。これらの生徒は、体育の授業は何をねらっているか分らない(7%)に殆んど含まれていたし、また利己主義がむき出しになる(7%)と答えた生徒とも殆んど同一であった。

まとめ：指導の結果は生徒の態度の変化として現われ、それによって自主的・積極的な体育が期待出来るものとする。今回の調査で三年時に好意的な答より非好意的な答が多かった生徒(態度得点がマイナス)は19名/251名あるが、このうち7名は一年時もマイナスで三年になって更にマイナスになった生徒であった。一年時より三年の方が良くなったがまだマイナスの生徒が6名。あとの6名は残念ながら一年時にプラスであって三年時にマイナスになった生徒であった。これらの生徒の生活態度についてはAで述べた。一年時でマイナスで三年時にプラスになった生徒45名についても先に述べた。これらの生徒について考えると体育に対する態度の変化は、授業の影響も大であるが、その他の生活からも大きな影響を受けるであろうことが考えられる。

以上

参考文献：徳永幹雄「学生の体育実技に対する態度変容とその要因」

(日本体育学会第25回大会体育心理専門分科会シンポジウム発表資料)